

読売新聞 きょう（8月11日）のイチ押し

一面 岸田改造内閣発足「有事に対応 政策を断行」

第2次岸田改造内閣が発足しました。19閣僚のうち14ポストを入れ替えて大幅な刷新を図りつつ、多くの閣僚経験者を据え、即戦力と実務を重視する布陣。首相は「有事に対応する政策断行内閣だ」と強調しました。

- ★首相は、内閣改造の狙いを「骨格を維持しながら、山積する課題に対して経験と実力を兼ね備えた閣僚を起用した」と述べ、松野官房長官、林外相、鈴木財務相らを「骨格」として留任させたと説明しました。
- ★重点課題には①防衛力強化②経済安全保障③新しい資本主義④感染症対策⑤子ども政策——を挙げました。この分野を担う浜田防衛相、高市経済安全保障相、西村経済産業相、河野デジタル相、加藤厚生労働相は閣僚経験者で、子ども政策の担当には、初入閣となる小倉少子化相を充てました。

一面など 大谷がベーブ・ルース以来の2桁勝利・本塁打

米大リーグ・エンゼルスの大谷翔平が、アスレチックス戦に先発投手兼2番指名打者で出場し、メジャーでは初めてとなる2桁となる10勝目（7敗）を挙げ、「野球の神様」と呼ばれたベーブ・ルース以来、104年ぶりとなる「2桁勝利、2桁本塁打」を達成しました。

6回4安打無失点の好投を見せ、七回には25号ソロ本塁打を放ち、投打二刀流の偉業に花を添えました。1918年に13勝、11本塁打を記録したルース以来となる快挙について、大谷は「光栄なこと。単純に（投手と打者の）二つをやっている人がいなかったというだけで、当たり前になってくれば、もしかしたら、普通の数字かもしれない」と語りました。

他紙と比べて

フィギュアスケート男子で五輪連覇を果たし、7月にプロ転向を表明した羽生結弦さんが、プロとしての練習を始めて披露しました。これに合わせて、読売新聞のインタビューに応じて、成功を目指すクワッドアクセル（四回転半ジャンプ）について、「アスリートでいられる証しで原動力」と思いを語りました。運動面で紹介しています。また、羽生さんの歩みを紹介する「羽生結弦展」（読売新聞社主催）が大阪高島屋で開幕したことを社会面で掲載しています。本紙は、プロになった羽生選手の活躍を追っていきます。